

令和5年度 第4回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:山梨県の子育てのリアル

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、乳幼児を育てている親の皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和5年11月21日(火) 午後1時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 8名

(主な意見等)

- 県の子育て支援は沢山あるが、父親にその情報が入りづらい。県職員の育休100%は素晴らしいと思う。自営業や農業など、育休が取りづらい人にも対応できるといい。
- 昼は仕事、夜は育児で負担が大きい。地域の子育て支援センターの役割が重要。子育ては経済的な負担が発生する。お金と時間があればもっと子どもがほしい。
- 子育てしながら働くのは大変。保育園がもっと充実し、定員がもっと増えれば、働きながら子育てしやすくなる。現在は、0、1、2歳の子どもの受け入れが厳しい状況がある。
- 産前産後ケアセンターの存在を知らない人が結構いる。素晴らしい施設なので、もっと知られるようになるといいと思う。
- 父親が育休をとると、子どもの懐き方が違うと感じた。妻も早く仕事に復帰でき、良い影響がある。父親にとっても貴重な体験。妻と子育てに関する感覚を共有できた。
- 外国人の親は日本語のコミュニケーションが難しい。書類の書き方など相談出来る人がいない。日本語で説明できる人や手続きを手伝ってくれる人がいれば嬉しい。
- 山梨は、屋内の子どもの遊び場が充実している。逆に屋外では、おむつ交換や授乳ができる場所が少ないと感じる。不妊治療や無痛分娩ができる医療機関が少ないのでは。
- 自分自身は育休を取ることができなかった。組織のトップが前面に出て、育休取得を推進するのは大変素晴らしいこと。仕事と子育てを両立できる環境が大事。
- 子どもが感染症にかかったときの対応が大変。病児保育にも入れるとは限らず、自分で看るしかない。男性も含めて、親が子どもの看病で休みやすい環境が必要。

(知事(県)の主な発言)

- 子育て情報をLINEでお届けするような仕組みを作れないか。予防接種とか、病児保育の空き状況、子育てイベントのお知らせなど。それも多言語で出来ないかと思う。
- 子育て中の親が孤独感を感じるという問題がある。スマホを使って何かしらコミュニティができればいい。場合によっては専門家に繋がれたり、申請もそこで完結するような。
- 国際保育は、周りの子どもの成長も含めて大きなプラスだと思う。レスパイトケアも重要であり、情報提供の充実を図りたい。
- 育休を取りやすい仕組みづくりをシステムとして考えたい。休むことが出来なくても、テレワークで仕事をする事も出来る。代替の人材をプールするシステムも考えられる。

